

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義および問題演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信 (Zoom) とオンデマンドを併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

1年間でフランス語初級文法を一通り学ぶ授業です。

到達目標

第1学期は、まずフランス語特有の文法(特に動詞の活用)と発音に慣れること。

1年間の目標としては、辞書を使いながらフランス語の文章を解読することができるようになること。フランス語の綴りと発音の関係を理解し、初見の文章でも音読できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / 文字と発音
第2回	教科書第1課
第3回	教科書第1課の続き
第4回	教科書第2課
第5回	教科書第2課の続き
第6回	教科書第3課
第7回	教科書第3課の続き
第8回	教科書第4課
第9回	教科書第4課の続き
第10回	教科書第5課
第11回	教科書第5課の続き
第12回	教科書第6課
第13回	教科書第6課の続き
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	教科書第7課
第17回	教科書第7課の続き
第18回	教科書第8課
第19回	教科書第8課の続き
第20回	教科書第9課
第21回	教科書第9課の続き
第22回	教科書第10課
第23回	教科書第10課の続き
第24回	教科書第11課
第25回	教科書第11課の続き
第26回	教科書第12課
第27回	教科書第12課の続き
第28回	補遺
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業内容・進度については修正・変更を加えていく可能性あり。

授業方法(対面授業の場合)

文法事項などを教員が説明したあと、練習問題を受講者が解く。練習問題のほか、例文なども受講者に音読してもらう。

授業方法(遠隔授業の場合)

ZoomおよびWeb Classを使用し、対面授業と同じ内容の授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

家での勉強には紙の辞書を使うことを強く勧めます。教科書に出てくる単語をどんどん調べ、紙の辞書と親しみましょう。練習問題なども予習して取り組んでください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30%	
学年末試験(第2学期)	35%	
中間テスト	20%	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

オンライン試験のみでの成績評価となる場合、平常点の比重はもう少し重くなります。また、オンライン試験は口頭試験(面接のような)になる可能性もあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験のあとには問題と解答についての解説を、音読試験のあとには全体の講評をします。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版,2018,9784255352800

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,9784255352527

参考文献コメント

辞書については、紙媒体の辞書をお勧めします。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

フランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法を習得し、簡単なフランス語のテキストを読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、授業の進度に応じて変更することがある。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料を事前に配布+Zoomにて同時配信授業

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前:指定した練習問題を行うこと。

授業後:文法事項や単語などを復習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。変更する場合は授業内に指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、期末テストの答案を返却する。必要に応じて授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

対面授業、遠隔授業をどうするかなど、未確定な要素が多いので、連絡には留意すること。

紙の仏和辞書を準備すること。予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解とフランス語実践演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	田上 竜也.清水 さやか		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 月曜日 5時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

毎週1回は仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回ではフランス語の実践的演習を行う。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキスト読解: 事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、和訳しておくこと。
フランス語実践演習: 辞書を丹念に引き、初級文法を学んだ教科書を参照しながら練習問題などを行うこと。
(それぞれ約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行う。

教科書

Lettres de mon moulin:Folio classique,Alphonse Daudet,Gallimard,1999,9782070408993

教科書コメント

上記は田上の授業。清水使用テキストについては初回授業時に指示する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

対面授業、遠隔授業をどうするか等、未確定なことが多いので、教員からの連絡には留意すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡB		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中条 省平.川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習を行う。
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

上記はあくまでも平常時での計画である。2022年度もコロナ禍の状況は見通せない。その場合、感染状況によって計画や内容も弾力的に変化させる可能性があることに留意してほしい。

対面授業が基本だが、遠隔授業にするかどうかの判断もその状況による。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式でおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClass、Zoomなどを用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡC		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	野村 正人.土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	テキスト読解、文法演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	テキスト読解、文法演習(23)
第27回	テキスト読解、文法演習(24)
第28回	テキスト読解、文法演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業方法(対面授業の場合)

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型の併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	対面試験不可の場合はオンライン試験
学年末試験(第2学期)	40 %	対面試験不可の場合はオンライン試験
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

授業時に指示

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.
第27回	Etc.
第28回	Etc.
第29回	Etc.
第30回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法(対面授業の場合)

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au

tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

授業方法(遠隔授業の場合)

Même chose, sauf qu'il faudra alors écrire sa traduction sur l'écran et non sur le tableau.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.
第27回	Etc.
第28回	Etc.
第29回	Etc.
第30回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法(対面授業の場合)

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au

tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

授業方法(遠隔授業の場合)

Même chose, sauf qu'il faudra alors écrire sa traduction sur l'écran et non sur le tableau.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102103	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習C		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	BIZET, Francois		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Les enfants au cinéma

到達目標

Ce cours doit permettre aux étudiants :

- 1) d'élargir leur culture cinématographique
- 2) d'améliorer leurs compétences en français oral
- 3) d'améliorer leurs compétences en français écrit

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction générale
第2回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (1)
第3回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (2)
第4回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (3)
第5回	Correction des devoirs
第6回	Travail sur Crin Blanc d'Albert Lamorisse (1)
第7回	Travail sur Crin Blanc d'Albert Lamorisse (2)
第8回	Correction des devoirs
第9回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (1)
第10回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (2)
第11回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (3)
第12回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (4)
第13回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (5)
第14回	Travail sur Les Quatre cents coups de François Truffaut (6)
第15回	Correction des devoirs
第16回	Introduction historique au film de Louis Malle, Au revoir les enfants (1)
第17回	Introduction historique au film de Louis Malle, Au revoir les enfants (2)
第18回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (1)
第19回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (2)
第20回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (3)
第21回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (4)
第22回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (5)
第23回	Discussion sur la période de l'Occupation au cinéma
第24回	Exposés des étudiants
第25回	Exposés des étudiants
第26回	Exposés des étudiants
第27回	Exposés des étudiants
第28回	Exposés des étudiants
第29回	Exposés des étudiants
第30回	Exposés des étudiants

授業方法(対面授業の場合)

Les cours auront lieu en présence. Une participation active des étudiants est demandée.

授業方法(遠隔授業の場合)

selon les circonstances

準備学習(予習・復習)

Les textes seront fournis à l'avance et devront être préparés, à la demande, pour le cours suivant.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les productions des étudiants seront corrigées et commentées individuellement et feront l'objet d'une reprise pendant le cours.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールA		
副題	アルベール・カミュ研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

アルベール・カミュ『ペスト』(1947)を読む。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	カミュおよび『ペスト』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	総括
第16回	後期ガイダンス
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	総括

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用する)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

La Peste:Folio,Albert Camus,Gallimard,978-2070360420

参考文献

ペスト:光文社古典新訳文庫,カミュ,光文社,2021, 978-4334754495

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールB		
副題	文学と建築		
英文科目名	Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	テキスト訳読、学生発表
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読、レポートの書き方指導
第17回	テキスト訳読、学生発表
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	テキスト訳読
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

授業方法(対面授業の場合)

教員による概要説明と、学生による発表

授業方法(遠隔授業の場合)

上に準じる(社会状況により遠隔授業を行う場合)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書コメント

コピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールC		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 対面授業		

授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

対面授業が基本である。

とはいえ、コロナ禍の感染状況によって、2022年度も計画および内容が変化する可能性があることに留意されたい。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus célèbres répliques du cinéma (Ramsay)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールD		
副題	近代フランスの政治諷刺画		
英文科目名	Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

西欧の近代において、政治諷刺画はどのように誕生して、どのような発展をしていったのかを考える。とりわけ政治諷刺画の黄金時代といわれるフランスの7月王制期の政治諷刺画に焦点をあて、諷刺画の表現方法、法的規制との関係などを詳しく見ていく。

到達目標

19世紀における政治諷刺画の歴史とその表現をよく理解する。19世紀西欧に見られる報道の自由とその抑圧の歴史を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	近代における政治諷刺とはなにか
第2回	18世紀までの政治諷刺(オランダ、イタリア、イギリス)
第3回	大革命からナポレオン時代の政治諷刺(1)
第4回	大革命からナポレオン時代の政治諷刺(2)
第5回	王政復古期の政治諷刺(1)
第6回	王政復古期の政治諷刺(2)
第7回	七月革命と諷刺画概観(1)
第8回	七月革命と諷刺画概観(2)
第9回	洋梨王の誕生と流行(1)
第10回	洋梨王の誕生と流行(2)
第11回	洋梨王の誕生と流行(3)
第12回	諷刺新聞『ラ・カリカチュール』(1)
第13回	諷刺新聞『ラ・カリカチュール』(2)
第14回	諷刺新聞『ラ・カリカチュール』(3)
第15回	達成度確認
第16回	グランヴィルとドーミエ(1)
第17回	グランヴィルとドーミエ(2)
第18回	大きな鼻と浣腸器
第19回	体制派の諷刺新聞
第20回	政治諷刺の終焉(1)
第21回	政治諷刺の終焉(2)
第22回	2月革命期の諷刺画(1)
第23回	2月革命期の諷刺画(2)
第24回	2月革命期の諷刺画(3)
第25回	2月革命期の諷刺画(4)
第26回	1870年以降の政治諷刺(1)
第27回	1870年以降の政治諷刺(2)
第28回	1870年以降の政治諷刺(3)
第29回	後期のまとめ
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

前後期を通じて、政治諷刺の歴史の講義とテキストの読解を行う。可能であれば、グループ発表も行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で読むフランス語のテキストの下読みをしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	レポートに代える可能性あり
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	訳読のでき
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポート、試験の答えは採点、コメントをつけて返却する。

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールE		
副題	翻訳者への第一歩		
英文科目名	Seminar		
担当者名	堀内 ゆかり		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction (1) ゼミの進め方について、フランス語力測定
第2回	Introduction (2)
第3回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第4回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第5回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第6回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第7回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第8回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第9回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第10回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第11回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第12回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第13回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント フランス語力測定
第17回	学生による発表、学生相互によるコメント
第18回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第19回	学生による発表、学生相互によるコメント
第20回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第21回	学生による発表、学生相互によるコメント
第22回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第23回	学生による発表、学生相互によるコメント
第24回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第25回	学生による発表、学生相互によるコメント
第26回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第27回	学生による発表、学生相互によるコメント
第28回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第29回	まとめ
第30回	振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翻訳発表の準備(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Le roi Babar:Lutin,Jean de Brunhoff,Hachette,9782211064835

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールF		
副題	Théâtre de Marivaux		
英文科目名	Seminar		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Pierre Carlet, dit Marivaux (1688-1763) fut journaliste et romancier mais surtout auteur de comédies, qu'il écrivit principalement pour la troupe des Italiens, dont il était devenu le dramaturge le plus prolifique. S'il n'obtint qu'un succès mitigé de son temps, on le considère aujourd'hui comme le principal écrivain de théâtre français du XVIIIème siècle. Nous étudierons cette année l'un de ses chefs-d'oeuvre les plus renommés, Le Jeu de l'Amour et du Hasard, créé en 1730 par les acteurs attirés de Giuseppe Riccoboni.

到達目標

Ce cours vise à donner une connaissance générale de la littérature du XVIIIème siècle et de ses enjeux, ainsi qu'un aperçu de l'histoire du théâtre en France. Il permettra d'aborder la lecture d'un texte qui, de son temps même, passait pour un peu difficile, et dont les enjeux philosophiques et sociaux n'ont peut-être pas toujours été compris.

授業内容

実施回	内容
第1回	Présentation 1 : Marivaux et son temps
第2回	Présentation 2 : L'oeuvre littéraire de Marivaux
第3回	Présentation 3 : Le théâtre de Marivaux
第4回	Le Jeu de l'Amour et du Hasard : introduction
第5回	Lecture du premier acte
第6回	Lecture du premier acte (suite)
第7回	Lecture du premier acte (suite)
第8回	Lecture du premier acte (suite)
第9回	Lecture du premier acte (suite)
第10回	Lecture du premier acte (suite)
第11回	Lecture du premier acte (suite)
第12回	Lecture du deuxième acte
第13回	Lecture du deuxième acte (suite)
第14回	Lecture du deuxième acte (suite)
第15回	Récapitulation du premier semestre
第16回	Lecture du deuxième acte (suite)
第17回	Lecture du deuxième acte (suite)
第18回	Lecture du deuxième acte (suite)
第19回	Lecture du deuxième acte (suite)
第20回	Lecture du troisième acte - Exposés
第21回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第22回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第23回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第24回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第25回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第26回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第27回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第28回	Lecture du troisième acte (suite) - Exposés
第29回	Conclusion générale
第30回	Un autre Marivaux : Les Fausses Confidences

授業計画コメント

Le nombre des exposés effectués par les étudiants au second semestre dépend évidemment du nombre total des participants.

授業方法(対面授業の場合)

Nous lirons ensemble le texte, sur lequel je livrerai un commentaire littéraire, historique et linguistique, modulable en fonction des questions qui me seront posées.

授業方法(遠隔授業の場合)

Les étudiants qui ne pourraient participer au séminaire "en présentie" recevront un enregistrement sonore de la séance terminée. Je préférerais cependant que tout le monde pût assister à mon cours...

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Il vaut sans doute mieux venir en classe après avoir lu le texte de Marivaux dans sa traduction japonaise (celle de Shindô Seiichi, sans doute, s'il n'en existe d'autre).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	70 %	Exposés

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Chaque exposé sera repris en classe par mes soins.

教科書

Le Jeu de l'Amour et du Hasard: "Classique", Marivaux, Pocket, 2018, 978-2266290043

参考文献コメント

N'importe quelle édition conviendrait : j'indique celle-ci afin que tout le monde ait la même, afin de simplifier les références aux numéros de page.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールG		
副題	作家たちの占領下 IV		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学・芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I：第1学期の授業の進め方について等
第2回	テキスト訳読と解説(1)
第3回	テキスト訳読と解説(2)
第4回	テキスト訳読と解説(3)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討議(1)
第6回	テキスト訳読と解説(4)
第7回	テキスト訳読と解説(5)
第8回	テキスト訳読と解説(6)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討議(2)
第10回	テキスト訳読と解説(7)
第11回	テキスト訳読と解説(8)
第12回	テキスト訳読と解説(9)
第13回	テキスト訳読と解説(10)
第14回	サブテキスト・資料による演習と討議(3)
第15回	理解度の確認
第16回	Introduction II：学期末試験の返却と解説、第2学期の授業の進め方、研究発表の準備について等
第17回	テキスト訳読と解説(11)
第18回	テキスト訳読と解説(12)
第19回	サブテキスト・資料による演習と討議(4)
第20回	テキスト訳読と解説(13)
第21回	テキスト訳読と解説(14)
第22回	研究発表と討議(1)
第23回	研究発表と討議(2)
第24回	研究発表と討議(3)
第25回	研究発表と討議(4)
第26回	研究発表と討議(5)
第27回	研究発表と討議(6)
第28回	研究発表と討議(7)
第29回	研究発表と討議(8)
第30回	研究発表と討議(まとめ)

授業計画コメント

占領下の生活や風俗を知るために、随時、映像や音声資料なども活用します。また研究発表の時期については、進度その他の都合上、多少前後する場合があります。

授業方法(対面授業の場合)

- (1) 第1学期と第2学期の途中までは、テキストの熟読がメインです。担当者による訳文の発表とそれに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。
- (2) 第2学期の後半は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をしてもらい、発表後、参加者全員で討議します。研究発表は、授業内で行うのが原則ですが、授業内での討議の時間を確保するため、あらかじめ準備したものをオンデマンドで配信するという形式も取り入れる予定です。
- (3) 学年末に研究発表での討議をもとに各自の研究結果をまとめたレポートを提出してもらいます。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを中心に、オンデマンドでの学習なども取り入れる予定です。資料の配布や提出物の回収、練習問題や小テストなどはLMS(Moodleを予定)を使用します。授業内容・進め方などは、対面授業の場合と基本的に同じです。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連文献などを読み、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20%	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40%	学年末レポート。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30%	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10%	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点后に授業内またはLMS(Moodleを予定)で返却・解説します。

教科書

Portrait d'un inconnu: Folio, Nathalie Sarraute, Gallimard, 1977, 9782070369423

参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代: 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

質問や連絡などはLMS(Moodleを予定)のメッセージ機能にて受け付けます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールH		
副題	『レ・ミゼラブル』を読む		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』を読み解く。ユゴーの作品世界を理解するために、ユゴーの他の作品、および他の作家の作品も必要に応じて触れる。

到達目標

ヴィクトル・ユゴーおよびユゴーの生きた時代の文化についての理解を深める。また、ユゴーが20世紀に与えた影響についても考察し、現代文学・演劇について新たな視座を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ユゴー紹介
第3回	テキスト1講読
第4回	テキスト1続き
第5回	テキスト2講読
第6回	テキスト2続き
第7回	映像資料等閲覧
第8回	テキスト3講読
第9回	テキスト3続き
第10回	テキスト4講読
第11回	テキスト4続き
第12回	テキスト5講読
第13回	テキスト5続き
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	テキスト6講読
第17回	テキスト6続き
第18回	受講生による発表、質疑応答、補足説明
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業で扱うテキストについては授業開始直後に渡します。授業進度、内容については修正・変更を加える可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

テキストの講読。映像資料も必要に応じて見ます。

授業方法(遠隔授業の場合)

Web ClassとZoomを使用した同時配信授業で、対面授業と同じ内容の授業をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたテキストをあらかじめ読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	オンラインでの発表も含む。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは夏休みに一回の予定だが、学年末にもレポートを課す可能性はある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

夏休みのレポートにはコメントをつけて返却する。

教科書コメント

資料に関しては授業内で指示をする。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103109	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールI		
副題	レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ 『パリの夜』を読む		
英文科目名	Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ 『パリの夜』を読む。
あわせて、卒論、レポート等に関する発表を行う。

到達目標

辞書などを活用して、フランス語の文章を読み解くことができる。作品の歴史的・文化的な背景を踏まえた上で、内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	作家・作品の紹介ならびに概要の説明
第2回	同上
第3回	訳読・発表
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	総括
第16回	先学期に行ったことの確認と、新学期の概要の説明
第17回	訳読・発表
第18回	同上
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	総括

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料やレジュメのやり取りをしつつ、Zoomでリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に該当箇所を読むこと。語彙、文法、その他の背景知識についても調べ、疑問点を明確にすること(約一時間)。その他、指示された参考資料に目を通しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は、あくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書

Les Nuits de Paris: folio classique, Rétif de la Bretonne, Gallimard, 9782070377398

教科書コメント

授業内で指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習A		
副題	ヴィリエ・ド・リラダン研究		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	12	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりヴィリエ・ド・リラダンの傑作戯曲『アクセル』を読みます。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、そこにこめられた思想や時代背景について理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト訳読
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業方法(対面授業の場合)

試験は対面の可能性あり。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

教科書

Axël, Villiers de l'Isle-Adam, Gallimard

教科書コメント

プレイヤッド版から該当箇所をコピー配布(各自ダウンロード)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習B		
副題	フランス暗黒小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	12	配当年次	学部 4年
時間割	通年 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19～20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

対面授業が基本である。
ただし、コロナ禍の状況によって計画や内容が変化させられる可能性があることに留意されたい。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

第1回目の授業時に指示する。

参考文献コメント

M. Lebrun & C. Mesplede : La Crème du crime (l'Atalante)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習C		
副題	フランス共和国の肖像		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	12	配当年次	学部 4年
時間割	通年 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Marianne, les visages de la République を読みながら、フランスの共和国を表徴する女性像(ときとして「自由の女神」として現れる。1848年以降は「マリアンヌ」と呼ばれる)とはなにかを考える。その女性像が、どのような要素から構成され、フランス革命以降、どのようなものとして国家が発信し、また国民が受け入れてきたかを、歴史的な流れのなかで明らかにする。

到達目標

フランス共和国を表す女性像がどのような意味を持つかを歴史的に概観することをとおして、近代のフランス史、「共和国」とはなにかを深く理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	国家を表す女性像について
第2回	近代フランス史の概説(1)
第3回	近代フランス史の概説(2)
第4回	Marianne les visages de la République の読解と解説(1)
第5回	Marianne les visages de la République の読解と解説(2)
第6回	Marianne les visages de la République の読解と解説(3)
第7回	Marianne les visages de la République の読解と解説(4)
第8回	Marianne les visages de la République の読解と解説(5)
第9回	Marianne les visages de la République の読解と解説(6)
第10回	Marianne les visages de la République の読解と解説(7)
第11回	Marianne les visages de la République の読解と解説(8)
第12回	Marianne les visages de la République の読解と解説(9)
第13回	Marianne les visages de la République の読解と解説(10)
第14回	前期のまとめ
第15回	達成度確認
第16回	Marianne les visages de la République の読解と解説(11)
第17回	Marianne les visages de la République の読解と解説(12)
第18回	Marianne les visages de la République の読解と解説(13)
第19回	Marianne les visages de la République の読解と解説(14)
第20回	Marianne les visages de la République の読解と解説(15)
第21回	Marianne les visages de la République の読解と解説(16)
第22回	Marianne les visages de la République の読解と解説(17)
第23回	Marianne les visages de la République の読解と解説(18)
第24回	Marianne les visages de la République の読解と解説(19)
第25回	Marianne les visages de la République の読解と解説(20)
第26回	Marianne les visages de la République の読解と解説(21)
第27回	Marianne les visages de la République の読解と解説(22)
第28回	Marianne les visages de la République の読解と解説(23)
第29回	後期のまとめ
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

範囲を決めて学生に訳読してもらい、それにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進める。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使う)とオンデマンド型を併用するが、方法は対面授業と同じ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を下調べしておくこと。1時間。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	和訳の発表
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験答案、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書

Marianne:les visages de la République :Découvertes Gallimard,Maurice Agulhon, Pierre Bonte

教科書コメント

必要に応じてプリント配布。

参考文献コメント

授業時に指示。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習C		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	志々見 剛		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習D		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1)ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2)アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	固有名詞の翻訳
第12回	言葉遊び
第13回	なぞなぞ、ダジャレ
第14回	笑い話
第15回	授業の総括
第16回	レトリック
第17回	直喩・隠喩
第18回	換喩
第19回	仏語学的考察(1)疑問文
第20回	仏語学的考察(2)命令文
第21回	仏語学的考察(3)名詞の性
第22回	仏語学的考察(4)部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(5)定冠詞
第24回	仏語学的考察(6)複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(7)大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(8)単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(9)受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

授業方法(対面授業の場合)

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう

授業方法(遠隔授業の場合)

パワーポイントに授業内容を録音したビデオを配信するオンデマンド型をとる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	課題提出
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

原則として、第1学期末にレポート提出、学年末に試験を行う予定。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席(オンデマンドの場合は課題提出)などの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

- 冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019
- 中級フランス語 あらわす文法,東郷雄二,白水社,2011
- Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
- フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
- 翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
副題	フランス語圏の舞台・映像史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

前期は、フランス語圏の映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。その変遷をよりよく理解するために、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

後期は、フランスにおける演劇・舞踊(バレエ)・オペラといった舞台芸術史をたどります。各ジャンルごとに、時代順に代表的な作品を紹介していく予定です。また、これら舞台芸術が文学・美術・音楽といった諸芸術とともに進化・発展していった過程を見ていきたいと思ひます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明やテキスト(台本)のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画や映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思ひます。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、フランスの舞台芸術史の変遷をおおまかに理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生(リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス)
第2回	ルネ・クレール
第3回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第4回	マルセル・カルネ(1)
第5回	マルセル・カルネ(2)
第6回	ジャン・ルノワール(1)
第7回	ジャン・ルノワール(2)
第8回	ヌーヴェル・ヴァーグ(1)
第9回	ヌーヴェル・ヴァーグ(2)
第10回	ヌーヴェル・ヴァーグ(3)
第11回	ヌーヴェル・ヴァーグ(4)
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画(1)
第13回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画(2)
第14回	理解度の確認
第15回	前期の振り返り
第16回	フランスの演劇(1)
第17回	フランスの演劇(2)
第18回	フランスの演劇(3)
第19回	フランスの演劇(4)
第20回	フランスの演劇(5)
第21回	フランスの演劇(6)
第22回	フランスの演劇(7)
第23回	フランスの演劇(8)
第24回	フランスの演劇(9)
第25回	フランスのバレエ(1)
第26回	フランスのバレエ(2)
第27回	フランスのバレエ(3)
第28回	フランスのバレエ(4)
第29回	理解度の確認

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassを使用しオンデマンド型で、必要に応じて文書、音声解説、映像資料などをアップロードする。
Zoomを使って同時配信する可能性もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。
なお、授業中の私語・遅刻・途中退席などが目立つ学生は減点することがあるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	澁谷 与文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス近現代に至る技術・認識・感性の変化についてテーマごとに概観します。

到達目標

フランス近現代の文化と社会を相互に関連づけて理解できる。
現代社会の諸問題について歴史的背景を踏まえて分析できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ワインとビール1
第3回	ワインとビール2
第4回	フランスの言語環境
第5回	中世地中海世界と知の移転
第6回	近代の起源
第7回	宗教改革
第8回	革命と反動
第9回	啓蒙と科学
第10回	革命前夜の人間観
第11回	植民地へのまなざし
第12回	啓蒙の世紀の女性と子供
第13回	教育制度と学校
第14回	夏季レポート準備回
第15回	理解度の確認
第16回	オリエンテーション
第17回	ナショナリズム・レジオナリズム・ユーロペイスム
第18回	ブルジョワ社会初期
第19回	オリジナリティー著作権と発明特許
第20回	プロレタリアの現実
第21回	社会主義
第22回	二月革命と普通選挙
第23回	オスマン改造
第24回	ダーウィンと実証主義
第25回	植民地主義とフランコフォニー
第26回	警察・司法制度とドレフュス事件
第27回	科学万能主義の終焉
第28回	両大戦間期
第29回	冬季レポート準備回
第30回	理解度の確認

授業方法(対面授業の場合)

講義が中心ではありませんが、ジェネリックスキルを意識しつつ、学生が書いて・議論して・整理して・振り返る時間を設けます。主体的に学ぶ中で知識の交換と定着を目指しますので、授業への能動的な参加が必要です。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンドで講義ビデオを視聴してもらいますが、毎回、一部Zoomを用いた同時配信型の時間帯があります。ただし、Zoomに参加できない場合は別の選択肢も準備しています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、課題図書に指定された箇所を書店・図書館・研究室で手に入れ読解する(30分～1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期、第2学期
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	出席、毎回のリアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーには下線などの記号や点数、コメントを付して返却する。
レポートの評価基準は、授業の進捗とともに段階的に解説した後、評価基準表を配布する。

参考文献

フランス文化史I, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510018
フランス文化史II, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510025
フランス文化史III, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510032
1789年—フランス革命序論: 岩波文庫, ジョルジュ・ルフェーヴル, 岩波書店, 1998, 978-4003347614
「近代」の意味: NHKブックス, 桜井哲夫, 日本放送出版協会, 1984, 978-4140014707

参考文献コメント

毎回、推薦・参考文献表を配布する

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生のみ履修可。但し、1・2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学史を学ぼう		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

中世から現代にいたるまでのフランス語圏の文学を学びます。歴史や文化などの時代背景も学びつつ、毎回その時代の代表的な作品の抜粋を読んでいます。なかには読んだことはなくても、映画や舞台などを通して題名や内容を知っている作品もあるかもしれません。それらを比較して原作を読むこともきっと楽しいでしょう。

文学史の授業をきっかけに、フランス語圏の様々な作品に触れてほしいと思います。

到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: フランス文学について
第2回	中世(1): 武勲詩、宮廷風騎士道
第3回	中世(2): 物語、抒情詩
第4回	16世紀(1): ルネサンスの文学
第5回	16世紀(2): ラブレール、モンテーニュ
第6回	17世紀(1): 古典主義
第7回	17世紀(2): 演劇(コルネイユ、ラシーヌ、モリエール)
第8回	17世紀(3): 「我惟う、ゆえに我あり」(デカルト)、「人間は考える葦である」(パスカル)
第9回	17世紀(4): 『寓話』(ラ・フォンテーヌ)、『ペロー童話集』(ペロー)
第10回	18世紀(1): 啓蒙の世紀
第11回	18世紀(2): 思想家たち(モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー)
第12回	18世紀(3): 小説(『マノン・レスコー』、『危険な関係』)
第13回	18世紀(4): 演劇(マリヴォー、ボーマルシェ)
第14回	18-19世紀: 擬古典主義からロマン主義へ——ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第15回	総括
第16回	19世紀(1): ヴィクトル・ユゴーと他のロマン主義の作家たち、スタンダール
第17回	19世紀(2): 「人間喜劇」(バルザック)、19世紀の悪女(ファム・ファタル)——『カルメン』(メリメ)
第18回	19世紀(3): 『悪の華』、『パリの憂愁』(ボードレー)
第19回	19世紀(4): 詩人たちの交感——ヴェルレーヌとランボー
第20回	19世紀(5): 写実主義から自然主義へ——フロベール、ゾラ、モーパッサン
第21回	20世紀前半(1): 「20世紀最大の知性」——ヴァレリー
第22回	20世紀前半(2): 『失われた時を求めて』(プルースト)
第23回	20世紀前半(3): エスプリ・ヌーヴォーとは? ——アポリネールと前衛の芸術家たち、ベル・エポックと女流作家コレット
第24回	20世紀前半(4): 「革命」——ダダとシュルレアリスム
第25回	20世紀前半(5): 自由を求めて——第二次世界大戦とレジスタンス文学
第26回	20世紀後半(1): 実存主義とは? ——サルトル、ボーヴォワール、カミュ
第27回	20世紀後半(2): 不条理演劇
第28回	20世紀後半(3): ヌーヴォー・ロマンとは?、第二次世界大戦後の詩の状況
第29回	20世紀後半(4): デュラス、クレオールとは?
第30回	総括

授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進捗、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法(対面授業の場合)

講義形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

zoomで行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:配布したテキストを事前に読み、自分なりの興味を見つけて授業に臨んでください(60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前後期レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートだけでなく、毎回のリアクションペーパーを重要視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995

新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002

増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生に限ります。但し、1,2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認めず。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には組織としてのフランス語圏の成立過程を学び、西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域の文化的特徴をテキストを訳読しながら理解していきます。更にフランス語圏の文学作品にもできるだけ多く触れていきます。第2学期には訳読に関連したグループワークなども取り入れていく予定です。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からではなく、外から理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会となる。また外国語としてのフランス語の「読む」能力の向上を同時に目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	簡単なフランコフォニー全般に関する文章を読む
第3回	プリント1 フランス語圏の成立1
第4回	プリント2 フランス語圏の成立2
第5回	プリント3 世界のフランス語圏を概観する1
第6回	プリント4 世界のフランス語圏を概観する2
第7回	プリント5 西ヨーロッパのフランス語圏1
第8回	プリント6 西ヨーロッパのフランス語圏2
第9回	プリント7 西ヨーロッパのフランス語圏3
第10回	プリント8 アフリカのフランス語圏
第11回	プリント9 北米のフランス語圏
第12回	プリント10 フランス語圏におけるフランス語の使用状況1
第13回	プリント11 フランス語圏におけるフランス語の使用状況2
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期オリエンテーション
第17回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)1
第18回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)2
第19回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)3
第20回	グループワークまたは個人発表(カリブ海のフランス語圏に関する発表)
第21回	グループワークまたは個人発表(アフリカのフランス語圏に関する発表)
第22回	グループワークまたは個人発表(カナダのフランス語圏に関する発表)
第23回	グループワークまたは個人発表(アジアの旧フランス植民地に関する発表)1
第24回	グループワークまたは個人発表(アジアの旧フランス植民地に関する発表)2
第25回	プリント12 カナダのフランス語圏の文学作品を読む1
第26回	プリント13 カナダのフランス語圏の文学作品を読む2
第27回	プリント14 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む1
第28回	プリント15 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む2
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに実施できるとは限らない。しかしながらフランコフォニーに関する文章の仏文和訳とグループあるいは個人での発表が本授業の核となることに変わりはない。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で実施していきます。

授業方法(遠隔授業の場合)

課題の提出とそれに対する解説、さらにZoomを用いた授業を組み合わせで実施します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントは予め日本語に訳しておくこと(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Webclassにアップする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

連絡は対面時かWebclassでおこないます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考する哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的レアリスム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	総括
第16回	ジャン・ヴィゴ
第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロール
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	総括

授業計画コメント

対面授業を基本とする。
ただし、コロナ禍の状況によって、計画や内容が変化させられる可能性があることに留意されたい。

授業方法(対面授業の場合)

講義形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

とくにない。

参考文献コメント

教室で直接指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)		
副題	20世紀フランスと前衛芸術		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	進藤 久乃		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀は、「前衛(アヴァンギャルド)」と呼ばれる芸術家や芸術運動が数多く生まれた時代である。彼らは革新性を追求しながらも従来の文学・芸術形式にも意識的であり、作品の概念や受容の形態に大きな変化をもたらした。既成の芸術ジャンルを越境し、国際的な広がりを持つことも前衛の特徴である。本講義では、フランス文学分野を中心に、前衛と呼ばれた(あるいはそれに対峙した)運動体や芸術家の具体的な作品・活動、及びその時代背景を紹介しながら、芸術作品・活動がいかにかその枠を超えて社会に関わりうるのかを考察する。

到達目標

- ・時代背景や文学史的な文脈を踏まえながら、20世紀フランスの前衛文学・芸術について知識を深める。
- ・伝統的な芸術ジャンルを越境する作品(カリグラム、作家と画家のコラボレーション作品、音声・映像作品など)について、分析し、レポートを作成することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	前衛(アヴァンギャルド)とはなにか
第3回	前衛の先駆者たち
第4回	未来派
第5回	ギョーム・アポリネールと周辺の詩人・芸術家たち アポリネールの作品
第6回	ギョーム・アポリネールと周辺の詩人・芸術家たち ピエール・ルヴェルディ、ブレーズ・サンドラール
第7回	ダダイズム(1) 紹介
第8回	ダダイズム(2) 作品の読解
第9回	シュルレアリスムの美学と詩学
第10回	シュルレアリスムの政治化
第11回	シュルレアリスム周辺の詩人
第12回	シュルレアリスムの芸術
第13回	非西欧芸術へのまなざし アントナン・アルトー、ミシェル・レリスを中心に
第14回	理解度の確認
第15回	到達度の確認
第16回	第1学期の復習
第17回	ナチス占領下フランスにおける前衛芸術(1) 紹介
第18回	ナチス占領下フランスにおける前衛芸術(2) 作品の読解
第19回	レトリズム
第20回	コブラ(CoBrA) 紹介
第21回	コブラ(CoBrA) 作品の読解
第22回	第2次世界大戦後におけるシュルレアリスムの展開
第23回	反前衛としてのウリポ(1) 『文体練習』を読む
第24回	反前衛としてのウリポ(2) ウリポの作家たち
第25回	シチュアシオニスト
第26回	フランスの前衛と交流のあった日本の詩人・芸術家
第27回	レポートの書き方について
第28回	ディスカッション
第29回	理解度の確認
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

上記の予定は目安であり、履修者の興味や関心に応じて計画を変更することがある。

授業方法(対面授業の場合)

講義形式で進める。履修者の積極的な参加を求める。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンド型で進める。毎週木曜日の授業時刻までに、スライドと音声、レジュメなどをアップロードする。
履修者は、毎回コメントシートの提出をもって出席とみなす。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中のノートを見直し、興味のある事項については紹介した参考文献を読んでみる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	遠隔の場合はミニレポートにする
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学年末レポート(4,000字レポート)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	コメントペーパー、授業への参加など
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修者からのコメントペーパーの内容を授業に反映させる。

教科書コメント

プリントを配布する。

参考文献コメント

参考文献については、授業内で紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	ベケットと20世紀文学・思想		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	清水 さやか		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)の作品を足がかりに、20世紀文学・思想の流れを概観する。前期はベケットの小説を読み、そのなかに見られるいくつかの問題系(主体、言語、身体、近代性、人間性/動物性など)を分析する。後期は類似の主題を持つ20世紀フランス語文学作品(プルースト、サロート、セリーヌなど)や、20世紀文学を理解する上で重要と思われる評論・哲学書を読み、比較検討することで、20世紀の人文文学においてどのような視点や関心が生まれ、どのような試みや探求がなされてきたのかを考察する。

到達目標

- (1) ベケットやその同時代の作家を20世紀フランス語文学・思想の流れの中に位置づけたうえで、各作品の意義や面白さを理解できるようになる。
- (2) 文学作品を分析的に読解し、その内容を自分の言葉で論理的に説明する力を養う。
- (3) 人文文学で問題にされてきたことを自らの生、もしくは現代の問題に引きつけて考えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:20世紀文学の流れとサミュエル・ベケットについて
第2回	小説『マロウン死す』と小説の革新
第3回	『マロウン死す』を読む(1)
第4回	『マロウン死す』を読む(2)
第5回	『マロウン死す』を読む(3)
第6回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(1)
第7回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(2)
第8回	モダニズムとフランス文学 「近代」とは何か(1)
第9回	モダニズムとフランス文学 「近代」とは何か(2)
第10回	『名づけられないもの』における「私」の探求
第11回	『ゴドーを待ちながら』を読む(1)
第12回	『ゴドーを待ちながら』を読む(2)
第13回	『ゴドーを待ちながら』を読む(3)
第14回	『ゴドーを待ちながら』を読む(4)
第15回	前期のまとめ
第16回	デカルトと20世紀文学(1)
第17回	デカルトと20世紀文学(2)
第18回	デカルトと20世紀文学(3)
第19回	周辺作家を読む:プルースト(1)
第20回	周辺作家を読む:プルースト(2)
第21回	周辺作家を読む:プルースト(3)
第22回	周辺作家を読む:サロート(1)
第23回	周辺作家を読む:サロート(2)
第24回	周辺作家を読む:サロート(3)
第25回	周辺作家を読む:セリーヌ(1)
第26回	周辺作家を読む:セリーヌ(2)
第27回	周辺作家を読む:セリーヌ(3)
第28回	20世紀文学と批評(1)
第29回	20世紀文学と批評(2)
第30回	後期のまとめ

授業計画コメント

授業の展開や受講者の関心・理解度に応じて、実施回ごとに予定されているテーマや扱う作品が変更になる可能性がある。

授業方法(対面授業の場合)

講義。

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClass を利用したオンデマンド型授業(授業音声や資料などを配信。毎回の課題提出を求める)。授業音声を聞いた講義となるが、受講者のコメントを紹介する時間も毎回設ける予定。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

その都度配布する資料をよく読み、毎回指示される課題(コメント)を提出すること。できれば授業で扱う作品の邦訳書を事前に読んでおくこと。なお、授業ではフランス語の原文を読む場合があるため、辞書も用意しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	各授業回の課題提出が出席代わりとなる。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、授業で扱った作品の意義を理解したうえで自分が関心を持てる点を見つけ、その関心に沿って自分なりに、かつ適切な方法で分析的・説得的に作品を論じることができかが評価のポイントとなる。詳しくは時期が近づいたら指示する。/平常点は、課題の提出状況や、課題の内容にみられる積極性・熱意が主な評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題として提出されたコメントの一部は授業で紹介する。

教科書

ゴドーを待ちながら:白水Uブックス,サミュエル・ベケット (安堂信也、高橋 康也訳),白水社,2013,978-4560071830

教科書コメント

教科書は前期半ば頃に読む予定なので、その時期までに入手しておくこと。ただし、『ゴドーを待ちながら』の他の翻訳(たとえば『新訳ベケット戯曲全集1 ゴドーを待ちながら/エンドゲーム』岡室美奈子訳、白水社、2018年など)、あるいはフランス語ないし英語の原典をすでに持っている場合は新たに購入する必要はない。詳しくは授業で説明する。

参考文献コメント

参考文献については、テーマごとに適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	フランス語圏の文学を訳す 17世紀から現代まで		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	岡部 杏子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

17世紀から現代までのフランス語圏の文学作品を訳読します。各回で扱う作品の作者、文芸批評、関連する映像作品も適宜紹介し、フランス語圏の歴史、文化についても考察します。また、日本語訳のある作品については、複数の既訳を比較し、翻訳の方法論についても考えてゆきます。

到達目標

- フランス語圏の文学作品の訳読をつうじて、
- 1) 2年次、3年次までに学んだ文法の知識を定着させ、運用する力を身につけること
 - 2) 文法の知識に基づき、適切に翻訳する力を養うこと
 - 3) 作品の読解をつうじて、フランス語圏の歴史や文化についての知識を深めること

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	ロジェ・グルニエ『レオノール』
第3回	ナタリー・サロート『つまらぬことで』
第4回	アントワーヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』
第5回	エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』
第6回	ジャック・プレヴェール『家族のうた』
第7回	ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』
第8回	パトリック・モディアノ『血統書』
第9回	フランソワ・ド・ラ・ロシュフーコー『箴言集』
第10回	ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」
第11回	ユベール・マンガレリ『終わりの雪』
第12回	アルチュール・ランボー「夜明け」
第13回	ギョーム・アポリネール「オレンジード」
第14回	前期のまとめ
第15回	到達度の確認
第16回	アラン・フルニエ『グラン・モーヌ』[1]
第17回	アラン・フルニエ『グラン・モーヌ』[2]
第18回	オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』
第19回	イレヌ・ネミロフスキー『舞踏会』
第20回	ジョルジュ・サンド『花たちのおしゃべり』[1]
第21回	ジョルジュ・サンド『花たちのおしゃべり』[2]
第22回	シャルル・ボードレール「窓」「スープと雲」
第23回	フランシス・ポンジュ「水について」[1]
第24回	フランシス・ポンジュ「水について」[2]
第25回	ジョルジュ・ペレック『消滅』[1]
第26回	ジョルジュ・ペレック『消滅』[2]
第27回	ミシェル・ビュートル「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」[1]
第28回	ミシェル・ビュートル「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」[2]
第29回	後期のまとめ
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

受講者の理解度を見ながら進めてゆきます。各回の内容が前後する場合があります。教科書を終えたら、教員が別途資料を配布します。

授業方法(対面授業の場合)

対面でおこないます。
受講者が作った訳文と、文法事項の説明を発表してもらったのち、教員が解説をおこないます。
訳文の検討をする際には、ディスカッションを取り入れる予定です。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンド型でおこないます。
作成した訳文をwebclassで提出してもらいます。次回の動画で、受講者が作成した訳文の検討、文法の解説をおこない、フィードバックします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:指定されたテキストを日本語に訳しておくこと、指定されたテキスト内の文法事項の要点を、文法書などで調べておくこと、教科書付属の音声聞き、発音練習をしておくこと(2時間程度)

復習:作成した訳文の修正、授業で扱った文法事項の要点をノートにまとめておくこと、教科書付属の音声聞き、正しい発音を身につけているか確認しておくこと(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

正しい発音で音読できること
文法事項を理解した上で日本語に訳していること
訳文を検討する際のディスカッションに積極的に参加していること

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で課題の解説をおこないます。

教科書

ことばの色 中級からのフランス文学読本,杉本圭子、福田桃子、岡部杏子,朝日出版社,2010,978-4-255-35312-8

参考文献

新フランス文法事典,朝倉季雄、木下光一,白水社,2002,978-4560000373
フランス語ハンドブック,新倉俊一ほか,白水社,改訂,1996,978-4560002308
仏文和訳の実際,倉田清,大修館書店,1977,978-4469250145
翻訳仏文法 上:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003,978-4480087911
翻訳仏文法 下:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003, 978-4480087928

参考文献コメント

授業内でも適宜紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

仏和辞典(中辞典以上の収録語彙数の辞書)を必ず持参してください。
1年次、2年次に使用した教科書、文法書も適宜持参して、すぐに参照できるようにすることが望ましいです。
また、仏仏辞典、国語辞典、類語辞典なども必要に応じて持参し、語彙力を高めるよう心がけてください。

その他

指定されたテキストを訳してから授業に臨んでください。
授業内でその場で訳すことのないようにしてください。

質問は、対面の場合は授業後に受け付けます。
オンラインの場合は、授業前後にwebclassで受け付けます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。フランス語圏の最新の文化事情を反映するテキストの読解を通じて、フランス語圏のアクチュアリティにも触れる。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、高度な読解と論述の能力、翻訳に必要な知識と実践的な技術を身につけることができる。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識できるようになる。さらに、フランス語圏のテキスト読解を通じて国際的な視野を身につけることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1) 文体
第13回	平易な小説(2) 描写
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期レポートについて確認及び解説
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 文体
第19回	新聞・雑誌等の文章(1) 文体
第20回	新聞・雑誌等の文章(2) 表記
第21回	新聞・雑誌等の文章(3) 固有名詞
第22回	字幕作成(1) 字幕制作の方法
第23回	字幕作成(2) 字幕制作の注意点
第24回	字幕作成(3) 実践
第25回	現代小説(1) 文体
第26回	現代小説(2) 人称及び時制
第27回	現代小説(3) 描写及び叙述
第28回	現代小説(4) 意識について
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成してメールで提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者の

意見やコメントを求めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンド型授業をおこないます。WebClassを使用して教材(講義文書及びフランス語テキスト)を配信し、訳の担当者を指名します。担当者は次の授業の前に訳文を作成してWebClassで提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成して WebClass で提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文提出)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントをします。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説コメントを伝えます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が25名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1)「卒業翻訳」を選択した4年生。

2)「言語・翻訳」コース所属の4年生

3)「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。

4)その他の3、4年生。

*履修希望者が25名を超えた場合、4)の中で抽選を行います。

その他

課題の訳文をWebClassにより提出してもらおうので環境を整えておいて下さい。連絡はWebClassのメッセージ機能を使用しますが、メールの使用も可能です。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	文学読解の初歩		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	BIZET, Francois		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Introduction au commentaire littéraire.

到達目標

Ce cours doit permettre aux étudiants

- 1) d'acquérir les techniques de l'analyse littéraire
- 2) de composer un commentaire selon les critères académiques

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction générale.
第2回	Lecture de Un homme qui dort de Georges Perec.
第3回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (1)
第4回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (2)
第5回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (3)
第6回	Correction des devoirs
第7回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (1)
第8回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (2)
第9回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (3)
第10回	Correction des devoirs
第11回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (1)
第12回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (2)
第13回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (3)
第14回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (4)
第15回	Correction des devoirs
第16回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (1)
第17回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (2)
第18回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (3)
第19回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (4)
第20回	Correction des devoirs
第21回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (1)
第22回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (2)
第23回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (3)
第24回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (4)
第25回	Correction des devoirs
第26回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (1)
第27回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (2)
第28回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (3)
第29回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (4)
第30回	Correction des devoirs

授業方法(対面授業の場合)

Les cours auront lieu en présence. Une participation active des étudiants est demandée.

授業方法(遠隔授業の場合)

selon les circonstances

準備学習(予習・復習)

Les textes seront fournis à l'avance et devront être préparés, à la demande, pour le cours suivant.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les productions des étudiants seront corrigées et commentées individuellement et feront l'objet d'une reprise pendant le cours.

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括(1)
第15回	授業の総括(2)
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括(1)
第30回	授業の総括(2)

授業方法(対面授業の場合)

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使ったオンライン授業(対面と同じ内容)とSlackを使った資料配布などオンデマンド方式を併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

- Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970
- Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008
- Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987
- Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983
- Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
副題	バレエリュスと総合芸術		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	上杉 未央		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

バレエは、主にフランスを中心に大きく発展した舞台芸術の一ジャンルであり、バレエ作品に関する批評は、文学、美学やファッション、美学との関連を示す極めて豊富な対象である。本授業はバレエ批評のテキストや関連する学術論文をフランス語で輪読しながら、バレエがどのような芸術ジャンルとして受け止められていたのか、あるいは、どのようなものであるべきだと考えられていたのか、考察することを目的とする。対象としては、1909年以降、パリで一世を風靡したロシアの団体バレエリュス(ロシアバレエ団)の講演評を主に扱う。この団体は、フランスの宮廷バレエを彷彿とさせる作品、フランスで花開いたロマンティックバレエ、異国趣味溢れる作品、当時流行していたギリシャ趣味の作品など、毛色の異なる作品から構成されるプログラムを提供していた。それぞれの作品に対する批評を読むことによってバレエ史の発展を感じ取ることが可能だ。批評の切り口は複数ある中で、時代の先端をいく芸術家たちに舞台美術や衣装、音楽の制作を依頼したバレエリュスの<総合芸術>性をめぐる考察に特に時間を割く予定である。

映像がある作品については、視聴覚資料の鑑賞も行う(各学期数回ずつ設ける対面授業で映像を鑑賞することも予定している)。バレエの歴史を概説する回を設けるため、バレエに関する専門的な知識は特に必要としない。絵画や音楽、ファッションと舞踊芸術との連関をみる授業であるので、芸術に興味のある学生であればひろく歓迎する。扱う対象やテキスト、順番は、受講者の関心に応じて変更する可能性がある。

到達目標

- ・舞踊の歴史についての知識を身につけ、叙述できる。
- ・フランス語のテキストを精確に読むことができる。
- ・批評テキストの読解を通じて、舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業の進め方、参考資料の紹介
第2回	バレエの歴史(1)
第3回	バレエの歴史(2)
第4回	バレエの歴史(3)
第5回	バレエリュスの活動の概要(1)
第6回	バレエリュスの活動の概要(2)<総合芸術>について
第7回	バレエリュス『アルミードの館』
第8回	バレエリュス『ジゼル』
第9回	バレエリュス『レ・シルフィード』
第10回	バレエリュス『ポロヴィッツ人の踊り』
第11回	バレエリュス『シェエラザード』
第12回	バレエリュス『ペトルーシユカ』『火の鳥』
第13回	バレエリュス『ダフニスとクロエ』
第14回	バレエリュス『牧神の午後』
第15回	総括
第16回	レポートのフィードバック
第17回	バレエリュス『春の祭典』(1)
第18回	バレエリュス『春の祭典』(2)
第19回	バレエリュス『春の祭典』(3)
第20回	バレエリュス『春の祭典』(4)
第21回	バレエリュス『春の祭典』(5)
第22回	バレエリュス『パレード』
第23回	バレエリュス『牝鹿』
第24回	同時代の舞台芸術(1)
第25回	同時代の他の舞台芸術(2)
第26回	バレエリュス以降のバレエの発展 (1)プティ
第27回	バレエリュス以降のバレエの発展 (2)ベジャール
第28回	バレエリュス以降のバレエの発展 (3)クランコ、ノイマイヤー
第29回	総括

授業方法(対面授業の場合)

フランス語のテキストを輪読する。担当者を事前に割り振り、訳文を準備してきてもらう。
題材となっている作品の映像を観る。

授業方法(遠隔授業の場合)

ビデオ会議システムzoomを用いてフランス語のテキストを輪読する。担当者を事前に割り振り、訳文を準備してきてもらう。zoomでは映像が鮮明に流せないため、関連動画のURLを事前に周知し、授業前に見てきてもらうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業で講読するテキストの予習をしてもらうこと(目安1時間)
- ・リアクションペーパーに記入すること(目安20分)
- ・1学期につき複数回(履修者の人数による)、担当者を決め、訳読発表してもらう。(目安2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点については、出席を前提とした上で、リアクションペーパーの提出頻度、受講態度や、訳読への取り組み方を評価基準とする。提出物に関しては、授業の内容を踏まえ、自分の言葉あるいは参考文献を適切に参照しながら、作品を分析し、論述できているかを評価基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは添削、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

教科書は指定しない。各批評テキストを集め、教員が訳読テキストを作成する。webclassを通じて配布する。

参考文献

- 踊る世紀,鈴木晶,新書館,1994,4403230385
- バレエ誕生,鈴木晶,新書館,2002,4403230946
- ディアギレフロシア・バレエ団とその時代,リチャード・バックル,リプロポート,1984,4845701154
- Triumphes et scandales. La belle époque des ballets russes,Roland Huesca,Hermann,2001,2705664211

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

教員のメールアドレスあるいはwebclassを通じて連絡すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

本演習では、ロラン・バルトの写真論を始めとする様々な写真理論を学ぶとともに、実際の写真作品をどのように分析し読み解くかを実践的に検討します。前期は主にアンリ・カルティエ＝ブレッソンなどのスナップ写真を取り上げ、後期にはナダールやアウグスト・ザンダーのポートレート写真を取り上げる予定です。

到達目標

①写真理論を身につける。②写真映像を分析的に見ることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション①写真
第2回	スナップ写真とは何か①
第3回	スナップ写真とは何か②
第4回	バルトの写真論①
第5回	バルトの写真論②
第6回	作品分析
第7回	作品分析
第8回	作品分析
第9回	関連写真論①
第10回	作品分析
第11回	作品分析
第12回	関連写真論②
第13回	作品分析
第14回	作品分析
第15回	前期の振り返り
第16回	イントロダクション②映画
第17回	ポートレート写真とは何か①
第18回	ポートレート写真とは何か②
第19回	バルトの写真論③
第20回	バルトの映画論④
第21回	作品分析
第22回	作品分析
第23回	作品分析
第24回	関連写真理論①
第25回	作品分析
第26回	作品分析
第27回	関連写真理論②
第28回	作品分析
第29回	作品分析
第30回	後期の振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式でディスカッションを組み込んだ授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

webclassを活用して、資料を使った学習、課題、議論を中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に授業で取り上げるテキストや作品を各自で検討します。授業後には、授業での議論をふまえて自分なりの作品分析を深めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

演習形式の授業であるため、授業への積極的な参加度を重視します。遠隔授業の場合、各授業回に課す小レポートに基づいて総合的に成績評価を行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため、授業内での参加者との議論の中でフィードバックを行います。

教科書コメント

教科書については、授業で指示します。

参考文献

明るい部屋, ロラン・バルト, みすず書房, 978-4622049050

まなごしのエクササイズ, ロズウェル・アンジェ, フィルムアート社, 2016, 978-4845912063

写真のなかの「わたし」: ポートレイトの歴史を読む, 鳥原 学, 筑摩書房, 978-4480689559

新写真論 スマホと顔, 大山 顕, ゲンロン, 2020, 978-4907188351

ありのままのイメージ: スナップ美学と日本写真史, 甲斐 義明, 東京大学出版会, 2021, 978-4130802239

参考文献コメント

その他の参考文献は授業で適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		
副題	フランス語(圏)の舞台にみることば、身体、そして権力の表象		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

この授業では、フランス又フランス語圏で1950年代以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を取り上げ、その特徴を紹介し、歴史的、美学的背景を考慮しながら、作品の意義を考えていく。予め通史的なアプローチを選ぶのではなく、取り上げる各作品の中から、他の作品との関連性、属する筈の「ジャンル」に対する立ち位置、ことばに対する戦略、身体の表象、古典に対する読み、観客という視点の構築、都市のなかの舞台の使命などのトピックを通して、作品の解明を目指すと同時に、戯曲に限らない舞台作品を映像を通して如何に読めるかを考えて行きたい。演習なので、与えられた課題(戯曲の紹介など、与えられた映像の試読など)に答えてみる発表をしていただく形もとる。

到達目標

戦後から現在までのフランス文化圏における演劇やダンスという大きな宇宙を垣間見ることから、文章だけではなく動画によって目と耳で確かめられる具体的な例を通じて、そのうちの幾つか重要な傾向、問題系、作家の仕事、フランス演劇の基礎的なレパートリーについての知識を獲得し、その理解を深める。また、断片でも原語で戯曲や批評文を読むこともあるので、フランス語に馴染む機会にもなる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	60年代から現代かけて、古典の読み直しの推移。
第3回	古典を演出する巨匠たち。VitezとChéreauの場合。
第4回	太陽劇団によるモリエール、Antoine Vitezのモリエール。
第5回	Vitez の三つのソフォクレスによる『Electre』、その1。
第6回	Vitez の三つのElectre. その2。
第7回	Vitez の三つのElectre. その3。
第8回	ベケット作『Fin de partie』(『勝負の終わり』)の試読、その1。
第9回	『Fin de partie』その2。現代劇の古典をいかに読むか。
第10回	『Fin de partie』を演出する(Charles Berlingによる舞台の例)。
第11回	モリエールの『Dom Juan』を読む。
第12回	『Dom Juan』、その2。Jouvetの演技指導や演出。
第13回	演出を語る演出。Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』。
第14回	『Elvire/Jouvet』その2。
第15回	まとめ。
第16回	ポストコロニアル状況の舞台、その1。
第17回	ポストコロニアル状況の舞台、その2。
第18回	ポストコロニアル状況の舞台、その3。
第19回	モリエールの『Tartuffe』を読む。
第20回	太陽劇団版の『Tartuffe』の創作。
第21回	集団創作の系譜。Aquarium劇団の仕事。
第22回	演出家を追い払った劇団。Tg Stan劇団によるモリエール。
第23回	Tg Stan劇団によるモリエール、その2。
第24回	パフォーマンスが問う身体と観客の眼差。Xavier Leroyの「Self portrait unfinished」。
第25回	パフォーマンスが問う身体と観客の眼、その2。Jérôme Bel。
第26回	人形に身体を奪われるパフォーマー。Giselle Vienneの『Jerk』。
第27回	『Jerk』その2。
第28回	ドキュメンタリー演劇の系譜。Milo Rauの仕事。
第29回	学生による発表
第30回	まとめ

授業計画コメント

演習の授業なので学生の参加による部分もあり、履修者数によって以上のスケジュールで扱う項目の順番などの変更がある可能性もある。

授業方法(対面授業の場合)

基本的に対面で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンラインに切り替える必要があった場合、資料の扱いの関係で、内容の変更もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や関連のある批評、演劇論などを読んでいただき、順番で発表という形でその内容を授業で伝えてもらうことがある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

演習ですので、学生の積極な参加が期待されます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートに対するコメントをします。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	写真の魅力を考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

フランスの写真家ウィリー・ロニによる、日常的なフランス語で書かれた回想録を読む。読解を通して語学力を養うとともに、プロの写真家による自身の作品や活動への言及・評価に触れることにより、写真という芸術が持つ特徴や魅力について考察する。また、写真家の文章と写真作品を比較し、写真と言葉、各々の表現方法の違いを発見する。

到達目標

1. 日常的なフランス語で書かれた文章を正確に読解する能力を習得する。
2. フランス語の文章を、発音規則にしたがって音読する能力を身につける。
3. 読解内容を芸術作品との関連で理解し、解釈および発展的思考ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 写真の歴史 ウィリー・ロニ、『Ce jour-là』紹介
第2回	Ce jour-là 講読：Noël 1952, Fascination p.13-15 (1)
第3回	Ce jour-là 講読：Noël 1952, Fascination p.13-15 (2)
第4回	Ce jour-là 講読：Place Vendôme, 1947 p.16-19 (1)
第5回	Ce jour-là 講読：Place Vendôme, 1947 p.16-19 (2)
第6回	Ce jour-là 講読：Belleville, 1957 p.35-38 (1)
第7回	Ce jour-là 講読：Belleville, 1957 p.35-38 (2)
第8回	Ce jour-là 講読：Les Amoureux du Pont des Arts, 1957 p.57-60 (1)
第9回	Ce jour-là 講読：Les Amoureux du Pont des Arts, 1957 p.57-60 (2)
第10回	Ce jour-là 講読：Écluses à Anvers, 1957 p.137-139 (1)
第11回	Ce jour-là 講読：Écluses à Anvers, 1957 p.137-139 (2)
第12回	Ce jour-là 講読：Le mineur silicosé, 1951 p.142-144 (1)
第13回	Ce jour-là 講読：Le mineur silicosé, 1951 p.142-144 (2)
第14回	第一学期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	Ce jour-là 講読：Chez Maxe, Joinville, 1947 p.8-11
第17回	Ce jour-là 講読：Le fil cassé, 1950 p.23-25
第18回	Ce jour-là 講読：En parapente à Valmorel, 1992 p.44-47
第19回	Ce jour-là 講読：Le retour des prisonniers, printemps 1945 p.53-56
第20回	Ce jour-là 講読：Noël 1954, La Bicyclette p.73-75
第21回	Ce jour-là 講読：Nu dans une mansarde, 1949 p.83-88 (1)
第22回	Ce jour-là 講読：Nu dans une mansarde, 1949 p.83-88 (2)
第23回	Ce jour-là 講読：Palais Pouchkine, 1986 p.89-92 (1)
第24回	Ce jour-là 講読：Palais Pouchkine, 1986 p.89-92 (2)
第25回	Ce jour-là 講読：Les marchandes de frites, 1946 p.109-111
第26回	Ce jour-là 講読：Les Adieux du permissionnaire, 1963 p.162-164
第27回	Ce jour-là 講読：Rue de la Huchette, 1957 p.177-179
第28回	Ce jour-là 講読：Le petit Parisien, 1952 p.187-190
第29回	一年のまとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業の進度・内容は、受講生の関心によって変更される可能性がある。

授業方法(対面授業の場合)

第1学期は一人一文ずつ順番に音読・訳読する輪番発表形式、第2学期は担当者による音読・訳文発表をグループワーク形式で

行う。発表の後、教員が質疑応答による文法事項の確認や解説をする。また、読解した内容、テーマについて、クイズや簡単なディスカッションの機会を設ける予定である。

講読する作品には実在の人物や作品、場所、歴史的事象が挙げられているので、インターネット等で調査して読解に役立てること。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoom を用いて、上記と同様の内容を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

受講生全員が、授業で予定された箇所の単語を調べ内容を把握し、訳読の準備を行い、予習課題として提出する。(1時間～2時間)

予習内容を授業中に確認し、読解が不十分であった場合は、次回の読解に生かせるよう文法事項を含めて復習する。(約1時間) テキスト内の固有名詞や背景にある歴史について、インターネットを利用して積極的に調べる。第2学期グループ発表では、発表担当が他の学生に説明できるよう準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	オンラインでレポート提出・返却を行う
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	Zoom を使用した同時配信授業を行う
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期・第2学期ともに訳読発表を行うことが単位取得の必須条件です。

必要な手続きを経ずに他人の文章を利用することは不正行為(盗用)となります。成績評価にも影響しますので、課題提出や発表の際は気をつけましょう。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読発表については、授業中に講評を行う。

学期末レポートはコメントを付して返却する。

教科書

Ce jour-là:folio,Willy Ronis,Mercurie de France,2008,978-2-07-035862-5

教科書コメント

教科書は教科書販売サイトで必ず購入すること。

参考文献

Willy Ronis:Photo poche,Willy Ronis,Actes sud,2009,2005,9782742757169

Mon Paris,Willy Ronis,Denoël,1991,2207231666

<パリ写真>の世紀,今橋映子,白水社,2003,4-560-03894-5

参考文献コメント

参考文献1、2は学内図書館に所蔵されているウィリー・ロニの写真集です。読解や発表準備に活用してください。

履修上の注意

履修者数に制限(25名)がありますので、初回授業に必ず出席し、履修希望の意思表示をしてください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	畑 浩一郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス国外におけるフランス語の使用のされ方、その汎用性を、18世紀末のポーランド人作家ヤン・ポツキの著作を通して探る。ポーランドの大貴族の出であるポツキは、生涯を旅のうちに過ごし、その中で膨大な著作を残しているが、それらは全てフランス語で書かれている。なかでも『サラゴサ手稿』はフランス・ロマン主義文学を先駆ける珠玉の名作である。本授業では、ポツキの著作、とりわけ小説や旅行記を中心にテキストの精読を行い、必ずしもフランコフォンではない当時の知識人たちがいかにフランス語を自家薬籠中の物としたかを考える。

到達目標

- ・18世紀後半から19世紀前半のポーランドやロシア宮廷におけるフランス語の果たす役割を理解する。
- ・ナポレオン戦争時代の東ヨーロッパの政治情勢を理解する。
- ・幻想文学の諸相について学ぶ。
- ・フランス語文献の読解力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期のガイダンス
第2回	ポツキの生きた時代
第3回	フランス語の汎用性
第4回	ポーランド分割とナポレオン戦争
第5回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(1)
第6回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(2)
第7回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(3)
第8回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(1)
第9回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(2)
第10回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(3)
第11回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(1)
第12回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(2)
第13回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(3)
第14回	前期の理解度の確認
第15回	前期の到達度確認
第16回	後期ガイダンス
第17回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(1)
第18回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(2)
第19回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(3)
第20回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(1)
第21回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(2)
第22回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(3)
第23回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第六デカメロン(1)
第24回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第六デカメロン(2)
第25回	ポツキの旅行記を読む(1)
第26回	ポツキの旅行記を読む(2)
第27回	ポツキの旅行記を読む(3)
第28回	ポツキの手紙を読む
第29回	後期の理解度の確認
第30回	後期の到達度確認

授業計画コメント

授業計画については、受講者の関心のありかに応じて変更する可能性もある。

授業方法(対面授業の場合)

原則として、受講者に担当箇所を割り当て、訳読を行う形で授業を進める。

授業方法(遠隔授業の場合)

対面授業の場合と形式は同じだが、同時配信型で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者以外も必ず事前に該当箇所を原文で読み、不明な点などを整理してくること (1 時間から2 時間)

授業後には指摘を受けた点を振り返り、必要に応じて、文献、インターネットなどで理解を深めておく (1 時間から2 時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは、コメントを付した上で返却する。

教科書

Manuscrit trouvé à Saragosse (version 1810), Jean Potocki, GF-Flammarion, 2008

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	詩のトポスとしてのパリ		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

パリは詩人に多くの靈感を与えるだけでなく、詩が生まれる場となってきました。本授業では、詩人たちがパリという都市をどのように歌ってきたのか、そして、パリという都市のどのような側面が詩人たちに詩の言葉を紡がせたのかを考察してきます。同時に、それぞれの詩篇に描かれるパリの形象を通して、詩人の思想、詩学を深く理解し、その文化的背景や歴史的背景を明らかにしていきます。

本授業では、19世紀以降の詩人(ユゴー、ボードレール、ヴェルレーヌ、アポリネール、アラゴン、エリュアール、シュペルヴィエル、サンゴール、レダ等)を対象とし、「失われるパリ／生まれ変わるパリ」、「恋するものたちのパリ」、「観光名所の／日常のパリ」、「異邦人のパリ」といった視点で詩を読んでいきます。

到達目標

1. 詩作品に活用されている韻律、音の効果、レトリックを分析し、その独自性を図ることができる。
2. フランス詩を丁寧に読解・分析し、自らの解釈を他者に説得的に語るができる。
3. 他の文学作品(他ジャンルも含む)や文化事象を参照しながら詩作品について論じることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	韻文の読み方1: 音綴syllabeの数え方。
第3回	韻文の読み方2: 様々な韻rimeを見てみよう。
第4回	韻文の読み方3: 様々なレトリックや音の効果の説明。定型詩の紹介。
第5回	韻文の読み方4: 韻律分析の実践(1)
第6回	韻文の読み方4: 韻律分析の実践(2)
第7回	散文詩、自由詩を読む(1)
第8回	散文詩、自由詩を読む(2)
第9回	「失われるパリ／生まれ変わるパリ」: ボードレール
第10回	「失われるパリ／生まれ変わるパリ」: ボードレール
第11回	「失われるパリ／生まれ変わるパリ」: ボードレール
第12回	「失われるパリ／生まれ変わるパリ」: エリュアール
第13回	「失われるパリ／生まれ変わるパリ」: エリュアール
第14回	前期のまとめ
第15回	理解度の確認
第16回	前期の復習
第17回	「恋するものたちのパリ」: ネルヴァールとボードレール
第18回	「恋するものたちのパリ」: ヴェルレーヌ
第19回	「恋するものたちのパリ」: アポリネール
第20回	「恋するものたちのパリ」: ブルトン
第21回	「恋するものたちのパリ」: アラゴン
第22回	「恋するものたちのパリ」: エリュアール
第23回	「恋するものたちのパリ」: プレヴェール
第24回	「観光名所の／日常のパリ」: ユゴー、ネルヴァール
第25回	「観光名所の／日常のパリ」: アラゴン
第26回	「観光名所の／日常のパリ」: レダ
第27回	「異邦人のパリ」: シュペルヴィエル
第28回	「異邦人のパリ」: サンゴール
第29回	授業の総括
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業の詳細は初回の授業で指示します。
授業計画はあくまで「案」ですので、受講生の興味にあわせて変更します。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式。
講師の解説だけでなく、受講者の輪読と発表、及びディスカッションによって授業を進めていきますので、皆さんの積極的な発言を待っています。発表に関してはグループ発表を取り入れる予定です。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使った同時配信授業。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

詩の解釈について授業内で議論しますので、訳読や発表の担当者以外も配布資料の必要部分をすべて読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表: 授業内で講評します。
レポート: 必要に応じて個別にフィードバックします。

参考文献コメント

参考文献は初回の授業で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	バタイユの思想を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	福島 勲		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

本授業では、ジョルジュ・バタイユの思想・批評的な文章を手がかりにして、バタイユの思想についての概観を得るとともに、人間や芸術の意味について一緒に考えていきたいと思います。具体的には、『ドキュマン』、『内的体験』、『呪われた部分』、『エロティシズム』、『ラスコーの壁画』、『文学と悪』等の抜粋(フランス語原文)を輪読をしながら、その内容をかみ砕いて解説します。

到達目標

- ・フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。
- ・人間や芸術の役割について、文化的、社会的、哲学的な視点から考えることができる。
- ・科学技術や経済効率とは別の観点から人間や文化を構想することができる。

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | イントロダクション: バタイユとは? |
| 第2回 | イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(1) |
| 第3回 | イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(2) |
| 第4回 | イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(3) |
| 第5回 | イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(4) |
| 第6回 | 無為と共同体: 『内的体験』を読む(1) |
| 第7回 | 無為と共同体: 『内的体験』を読む(2) |
| 第8回 | 無為と共同体: 『内的体験』を読む(3) |
| 第9回 | 無為と共同体: 『内的体験』を読む(4) |
| 第10回 | 無為と共同体: 『内的体験』を読む(5) |
| 第11回 | 消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(1) |
| 第12回 | 消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(2) |
| 第13回 | 消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(3) |
| 第14回 | 消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(4) |
| 第15回 | 前半のまとめ&到達度確認 |
| 第16回 | 性と死: 『エロティシズム』を読む(1) |
| 第17回 | 性と死: 『エロティシズム』を読む(2) |
| 第18回 | 性と死: 『エロティシズム』を読む(3) |
| 第19回 | 性と死: 『エロティシズム』を読む(4) |
| 第20回 | 性と死: 『エロティシズム』を読む(5) |
| 第21回 | 芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(1) |
| 第22回 | 芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(2) |
| 第23回 | 芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(3) |
| 第24回 | 芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(4) |
| 第25回 | 芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(5) |
| 第26回 | 文学と至高性: 『文学と悪』を読む(1) |
| 第27回 | 文学と至高性: 『文学と悪』を読む(2) |
| 第28回 | 文学と至高性: 『文学と悪』を読む(3) |
| 第29回 | 文学と至高性: 『文学と悪』を読む(4) |
| 第30回 | 一年のまとめ&到達度確認 |

授業計画コメント

授業内容で提示したテキストはあくまでサンプルとなります。進度は、参加者の興味・理解度に応じて柔軟に変化します。

授業方法(対面授業の場合)

演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム・オンライン方式(お互いのコミュニケーションのためにビデオオンでの参加を必須としますので、良好な情報環境で履修してください)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の予習・復習には60分～120分程度、かかると想定されます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、学生の理解度に応じて、各学期1～3回課します。小テストにおいては、毎回の課題(授業コメントと宿題)を評価いたします。平常点においては、積極的参加および発表内容を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(宿題や授業コメント)には、授業内でフィードバックを行います。

教科書コメント

適宜、配布します。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

フランス語テキストの読解を授業で行いますので、フランス語未履修者は受講できません。履修者数制限があります(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
副題	マラルメと芸術運動		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	村上 由美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

この演習では、19世紀後半のフランスでおこった芸術運動、とくに象徴主義や印象派におけるステファヌ・マラルメの思想のひろがりを考える。前期は、おもに象徴主義について扱う。象徴主義をはじめとする芸術運動は、詩、音楽、絵画、演劇など広範囲に及ぶ。代表的な詩人はボードレール、ランボー、マラルメ、ヴェルレーヌなどが挙げられ、演習ではマラルメを中心に象徴派の詩作品を読みすすめながらサンボリズムを解釈していく。また、絵画や音楽をはじめとする他のジャンルにおけるサンボリズムやその歴史的背景なども学びながらすすめる。後期は、おもに印象派について扱う。とくに印象派の画家たちとマラルメとのかかわりのなかから印象派について考える。

テキストは、マラルメについてはドマン版『マラルメ詩集』を中心に、比較的読みやすい詩編を扱う。フランス語による定型韻文詩を原語で読むために必要な韻律法versificationの規則を解説しながらすすめていくので、詩をまったく読んだことのない学生も歓迎する。また、詩人たちの評論や書簡をあわせて講読し、作品解釈の仕方を身につける。

到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(1)フランス近代詩の歴史について
第2回	導入(2)フランス語定型詩の韻律法について
第3回	象徴主義についての文献をよむ(1)
第4回	象徴主義についての文献をよむ(2)
第5回	J・モレアス「象徴主義宣言」(1886)をよむ
第6回	ボードレールによる詩編
第7回	ランボーによる詩編
第8回	ヴェルレーヌによる詩編
第9回	マラルメによる詩編(1)
第10回	マラルメによる詩編(2)
第11回	マラルメによる詩編(3)
第12回	マラルメによる詩編(4)
第13回	マラルメによる詩編(5)
第14回	マラルメ以降の詩人たちによる詩編
第15回	第1学期のまとめ 到達度確認
第16回	第2学期授業の説明(導入:印象派について)
第17回	印象派についての文献をよむ(1)
第18回	印象派についての文献をよむ(2)
第19回	印象派についての文献をよむ(3)
第20回	ボードレールによる美術批評(1)
第21回	ボードレールによる美術批評(2)
第22回	マラルメによる美術批評(1)
第23回	マラルメによる美術批評(2)
第24回	マラルメによる美術批評(3)
第25回	マラルメによる美術批評(4)
第26回	マラルメによる美術批評(5)
第27回	マラルメによる美術批評(6)
第28回	その他の作家たちによる美術批評(1)
第29回	その他の作家たちによる美術批評(2)
第30回	授業の総括、到達度確認

授業計画コメント

※ 授業の進捗や内容は、履修者の興味、関心や理解度に応じて変更する場合がございます。

授業方法(対面授業の場合)

対面の場合は演習形式となり、学生による訳読と解釈の発表によってすすめていきます。(この授業は基本的に遠隔ですが、教室の空き状況により、学期中に数回臨時の機会が得られれば対面授業をおこないたいとおもいます。)

授業方法(遠隔授業の場合)

この授業は遠隔授業となります。授業方法は演習形式でおこない、学生による訳読と解釈の発表(提出)によってすすめていきます。授業はリアルタイム配信でおこない、双方向ですすめます。場合によっては授業を補うかたちでオンデマンド配信もおこないます。リアルタイムでの参加が難しい方も、ご相談いただければ録画を活用し受講できるように配慮したいと考えております。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講読するテキストについては、授業前に該当箇所を読み、わからない単語などを調べておいていただきます。担当者には訳文を発表(遠隔の場合は提出)していただきます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点70%(出席、授業参加度、遠隔の場合は課題提出を重視いたします)。レポート30%。
上記の割合はあくまで目安です。受講者の数などによって変更することがございます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳文の発表については毎回授業中にコメント・解説をおこないます。レポートは、コメントをつけて返却いたします。

教科書

Poésies, préface d'Yves Bonnefoy, éd. par Bertrand Marchal: Coll.«Poésie»,Stéphane Mallarmé,Gallimard,1992,9782070327164

教科書コメント

教材については、各学期第一回目にwebclassをとおして配布いたします。

参考文献コメント

授業中に適宜ご紹介いたします。

履修上の注意

履修者数制限があります(25名)。
初回の授業にて注意事項をお伝えしたり、ご相談を受け付けますので、必ずご出席ください。

その他

ご連絡いただく場合はwebclassのメッセージ欄にてお送りいただけますようお願い申し上げます。履修者には初回授業時に、その他の連絡方法(メールアドレス等)をお知らせいたします。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	フローベール『ボヴァリー夫人』研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	野村 正人		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ギュスターヴ・フローベール『ボヴァリー夫人』を丹念に読み解きながら、作品を成り立たせている構造やテーマの分析を行うと同時に、小説に描かれた細部の歴史的背景を調べることによって、作品の理解を深いものとする。

到達目標

フローベール『ボヴァリー夫人』の独自性を理解すると同時に、19世紀の文学におけるリアリズムとはなにかを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	19世紀小説史の概観(1)
第2回	19世紀小説史の概観(2)
第3回	作家フローベールと作品『ボヴァリー夫人』の概説(1)
第4回	作家フローベールと作品『ボヴァリー夫人』の概説(2)
第5回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(1)
第6回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(2)
第7回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(3)
第8回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(4)
第9回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(5)
第10回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(6)
第11回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(1)
第12回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(2)
第13回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(3)
第14回	前期のまとめ
第15回	達成度確認
第16回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(4)
第17回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(5)
第18回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(6)
第19回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(7)
第20回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(8)
第21回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(9)
第22回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(1)
第23回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(2)
第24回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(3)
第25回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(4)
第26回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(5)
第27回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(6)
第28回	『ボヴァリー夫人』全体のコメント・解説(1)
第29回	『ボヴァリー夫人』全体のコメント・解説(2)
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

事前に担当箇所を学生に指定し、その部分で調べたことを発表してもらう。それをもとにコメントをつけ、解説をする。受講学生の人数にもよるが、学部の学生は発表をせず、質疑応答、コメントのみ参加してもらう。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型 (Zoomを使う) とオンデマンド型を併用するが、方法は対面授業と同じ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を下調べしておくこと(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	レポート提出
学年末試験(第2学期)	40 %	レポート提出
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

最初はコピーを使う。テキストは授業時に指示。

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	Hugo et l'épopée		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

Au Japon, Victor Hugo est plus connu comme romancier qu'en tant que poète. C'est plutôt le contraire en France, où les Orientales, Les Rayons et les Ombres et Les Contemplations continuent d'être étudiés assidûment dans les établissements d'enseignement secondaire. Ecrite entre 1855 et 1876, principalement dans l'exil de Guernesey, La Légende des Siècles a été publiée en trois livraisons, en 1859, 1877 et 1883. Le plan du livre peut sembler un peu cahotique : il s'agit d'une série de longs poèmes dans lesquels l'histoire humaine est présentée sous une forme épique, fantastique, souvent dans une perspective métaphysique, ou voulue telle par l'auteur.

到達目標

La lecture extensive de ces "petites épopées" (puisque tel était le projet initial du livre dont l'éditeur Hetzel avait passé commande à Hugo) nous permettra de mettre au point certaines questions concernant la versification française, l'histoire du monde, celle de la littérature... et peut-être aussi quelques détails de grammaire...

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Présentation de Victor Hugo. |
| 第2回 | Présentation de La Légende des Siècles |
| 第3回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第4回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第5回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第6回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第7回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第8回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第9回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第10回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第11回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第12回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第13回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第14回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第15回 | Récapitulation du premier semestre. |
| 第16回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第17回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第18回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第19回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第20回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第21回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第22回 | Exposé sur le texte. |
| 第23回 | Exposé sur le texte. |
| 第24回 | Exposé sur le texte. |
| 第25回 | Exposé sur le texte. |
| 第26回 | Exposé sur le texte. |
| 第27回 | Exposé sur le texte. |
| 第28回 | Exposé sur le texte. |
| 第29回 | Exposé sur le texte. |
| 第30回 | Conclusion générale. |

授業計画コメント

Le temps consacré aux exposés dépendra évidemment du nombre des participants au cours.

授業方法(対面授業の場合)

Nous lirons ensemble certains extraits du texte, que je commenterai ligne à ligne, selon les principes de l'explication de texte "à la française".

授業方法(遠隔授業の場合)

Toutes les séances seront "en présentiel".

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lire le texte avant le cours et le relire après... C'est à peu près tout ce que je puis conseiller : à part, bien sûr, de soigner la préparation des exposés au cours du second semestre.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	Exposés

成績評価コメント

Les exposés consisteront, pour chacun des étudiants, à présenter le commentaire détaillé d'une partie du texte qui lui aura été attribuée par mes soins.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Je reprendrai l'exposé au cours de la même séance et m'efforcerai d'en souligner les qualités et d'en pallier les manques éventuels.

教科書

La Légende des Siècles: "Poésie", Victor Hugo, Gallimard, 2002, 978-2070418725

参考文献コメント

Beaucoup d'éditions sont incomplètes ou ne présentent pas les différents poèmes dans le même ordre. Il est important que tout le monde dans la classe utilise le même livre.

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z3	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	シラノ・ド・ベルジュラック『月世界旅行』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

シラノ・ド・ベルジュラックは、17世紀の文人、自由思想家で、彼の『月世界旅行』は、奇想と風刺に満ちたSF的な作品である。この授業では、作品の背景を逐次確認しながら、このテキストを読み解いていく。

(なお、ロスタンの『シラノ・ド・ベルジュラック』という戯曲はこの人物をいちおうのモデルとしている。)

到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、フランス語のテキストを理解し、分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	総括
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	総括

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料などをやりとりしつつ、Zoomでのリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。
発表担当者はレジュメを準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

教科書

Voyage dans la lune l'autre monde ou les États et empires de la Lune, Cyrano de Bergerac, Flammarion, 9782080702326

参考文献

日月両世界旅行記: 岩波文庫, シラノ・ド・ベルジュラック著, 赤木昭三 訳, 岩波書店, 9784003250617

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z4	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	『パリの憂鬱』を読む 3 (「政治的射程」の考察)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

一昨年度、昨年度に続き、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の様々な詩篇を読みながら、この詩集、あるいは、「散文詩」という19世紀に誕生した新しい文学ジャンルそのものが含み持つ、複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)を考察する。
 一昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、「表象不可能な現実(界)の表象」の終わりなき営為としてとらえるに至った。また、昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、写真との関係、フローベールの「非人称性」の美学との関係において検討した。
 最終年度となる今年度は、とりわけ、この詩集の政治的射程に焦点をあてながら、詩集全体に関わる、民主主義、他者性、共和主義、コミュニケーション、暴力等の問題を、総合的に考察する。

授業は、『パリの憂鬱』をめぐる批評文の紹介・検討と未読詩編の詳細な読解という二つの部分からなる。

今年度、批評文としてとりあげるのは、Patrick Labarthe commente Petits Poèmes en prose, Foliothèque, Gallimard, 2014, 及び、Le Magazine Littéraire誌の「晩年のボードレール」特集号(2014年10月)に掲載された以下の論文である。

Pierre Glaudes, 《 Révolutionnaire ou réactionnaire ? 》

Stéphane Guégan, 《 De la peinture dans l'encrier 》

Steve Murphys, 《 Un monstre d'ambivalence 》

なお、下に掲げる各回の授業内容は、一年間でとりあげる内容を大まかに列挙したものである。実際の授業においては、それぞれのテーマをとりあげる順序を、変更する可能性がある。

到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期全体についての説明
第2回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)1
第3回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)2
第4回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)3
第5回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)4
第6回	学生による発表
第7回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)5
第8回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)6
第9回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)7
第10回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)8
第11回	学生による発表
第12回	中間的総括1
第13回	中間的総括2
第14回	学生による発表
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	1学期全体についての説明
第17回	『パリの憂鬱』の総合的考察1
第18回	『パリの憂鬱』の総合的考察2
第19回	『パリの憂鬱』の総合的考察3
第20回	『パリの憂鬱』の総合的考察4
第21回	学生による発表
第22回	『パリの憂鬱』の総合的考察5
第23回	『パリの憂鬱』の総合的考察6
第24回	『パリの憂鬱』の総合的考察7
第25回	『パリの憂鬱』の総合的考察8
第26回	学生による発表
第27回	授業全体の総括1
第28回	授業全体の総括2

- 第29回 授業全体の総括3
 第30回 振り返り、到達度確認、等

授業方法(対面授業の場合)

本授業は対面で行う。授業では、原則として、何回か続けて鈴木が特定のテーマに関する講義を行ったあと、参加している学生一人一人から、講義の内容についてのコメントを述べてもらう。また、授業では、随時、学生による訳読や、研究発表も行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

(本授業は対面授業を基本とする)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回に講読を予定しているテキストや、事前に配布された日本語によるレジюмеなどの資料は、必ず読んでおくこと。フランス語テキストの事前の準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Graod Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業で、辞書についての簡単な説明も行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業参加の積極性、課題への取り組みの真剣さが評価のポイントとなる

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書

Le Spleen de Paris: Le livre de poche "classiques", Baudelaire, Le Livre de Poche, 2003

教科書コメント

Le Livre de Poche版がどうしても入手できない場合は、他の版を用いても構わない

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献の探し方を学ぶ
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括(1)
第15回	総括(2)

授業方法(対面授業の場合)

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にWebClassを使用したオンデマンド型授業をおこなう。毎回の授業で教材(講義文書と資料)を配信する。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。Zoomを使用してレポートや論文のテーマについてのアドバイスをおこなうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントをよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

WebClassによってWord文書のレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。連絡にはWebClassのメッセージ機能を使用する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献の探し方を学ぶ
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括(1)
第15回	総括(2)

授業方法(対面授業の場合)

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にWebClassを使用したオンデマンド型授業をおこなう。毎回の授業で教材(講義文書と資料)を配信する。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。Zoomを使用してレポートや論文のテーマについてのアドバイスをおこなうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントをよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」との重複履修は不可。

その他

WebClassによってWord文書のレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。連絡にはWebClassのメッセージ機能を使用する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
講義名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

卒業論文を提出する学生だけでなく、卒業論文として提出せずに3-4年生の研究を論文としてまとめたいと思う学生も歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : Comment préparer un dossier sur le sujet 1
第3回	Préparer le plan du dossier
第4回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第5回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第6回	Mise en commun des travaux de groupe
第7回	Fin de la rédaction du dossier.
第8回	Compréhension d'une émission radio en français sur le sujet 1
第9回	Faire une émission radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第10回	Les étudiants présentent leurs émissions radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第11回	Compréhension d'un reportage en français sur le sujet 1
第12回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第13回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第14回	Présentation des reportages par les étudiants
第15回	総括
第16回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第17回	Sujet 2 : Comment préparer un dossier sur le sujet 2
第18回	Préparer le plan du dossier
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第20回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 2
第21回	Mise en commun des travaux de groupe
第22回	Fin de la rédaction du dossier.
第23回	Compréhension d'un documentaire en français sur le sujet 2
第24回	Faire un court documentaire en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第25回	Les étudiants présentent leurs documentaires en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第26回	Quizz sur le sujet 2
第27回	Correction du Quizz sur le sujet 2
第28回	Rédiger un résumé en français sur un sujet donné
第29回	Rédiger un résumé en français sur un sujet donné
第30回	総括

授業方法(対面授業の場合)

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

授業方法(遠隔授業の場合)

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe (Système BBS de WebClass)

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習A		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

TCF (Test de Connaissance du Français =フランス語能力試験) 受験対策問題演習などを通して、フランス語能力を高めていくための授業。特に、聴解力を伸ばすことを目指します。今年はシャドーイングと時事的なニュースを2本の大きな柱として授業を進める予定です。
TCF試験を受験することを前提とした授業です。

到達目標

受講者各自が自らのフランス語レベルを上げること。フランス語を通じてフランス語圏文化の理解を深めていくこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についておよびTCFについての説明。
第2回	演習問題その1
第3回	演習問題その1解説および演習問題その2
第4回	演習問題その2解説および演習問題その3
第5回	演習問題その3解説および演習問題その4
第6回	演習問題その4解説および演習問題その5
第7回	演習問題その5解説および演習問題その6
第8回	演習問題その6解説および演習問題その7
第9回	演習問題その7解説および演習問題その8
第10回	演習問題その8解説および演習問題その9
第11回	演習問題その9解説および演習問題その10
第12回	演習問題その10解説および演習問題その11
第13回	演習問題その11解説および演習問題その12
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	演習問題14
第17回	演習問題14解説および演習問題15
第18回	演習問題15解説および演習問題16
第19回	演習問題16解説および演習問題17
第20回	演習問題17解説および演習問題18
第21回	演習問題18解説および演習問題19
第22回	演習問題19解説および演習問題20
第23回	演習問題20解説および演習問題21
第24回	演習問題21解説および演習問題22
第25回	演習問題22解説および演習問題23
第26回	演習問題23解説および演習問題24
第27回	演習問題24解説および演習問題25
第28回	演習問題25解説および演習問題26
第29回	理解度の確認
第30回	総まとめ

授業計画コメント

授業内で使用する/使用した資料はWeb Classに掲載しますので、こまめにチェックすること。

授業方法(対面授業の場合)

各受講者に教科書、CD、DVDおよびインターネット上の音声教材、動画教材に取り組んでもらう演習型講義です。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業の場合はzoomによる同時配信型を使用します。音声、画像、動画などを同時に共有しながら演習を進めます。受講者に答えてもらう時には音声およびチャットを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配られたプリントは予習復習に使用すること。また、毎日出来る限り多くの時間フランス語に触れること(聴くこと、読むこと)がフランス語能力を高めるためには必須なので、理想的には自宅でも毎日、音声・映像教材に取り組んでほしいです。かけ流してもいいので！

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	TCFあるいはオンラインテスト
学年末試験(第2学期)	30 %	オンラインテスト
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への積極的な参加。オンライン試験は、Zoomによる口頭試験を行う可能性もあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、提出後に解説およびコメントをする。

教科書

フランス語シャドーイング入門,藤田裕二 ミドリ・ティオリエ,DHC,2019,9784887245433

教科書コメント

教科書のほか、教師作成プリントも使用。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

TCF受験を前提に、特に「聞き取り」の力を強化します。

教科書を使った聞き取り練習に加えて、France2などのニュースを視聴し、できるだけ多くのソースから実際に使われているフランス語に触れ、特に時事的な語彙を増やします。

到達目標

- ①まず、恐れずにフランス語の情報に接し、見て、聴いて理解することができるという自信をつけましょう。
- ②同時に日常的にフランス語に触れる環境をどのように構築するかを学び、それを実践できるようにしましょう。
- ③年に2回(通常6月と12月)行われるTCFの試験でB1を目指しましょう。

授業内容

実施回	内容
第1回	この授業の進め方と自分でどんな準備をしたらいいかの解説
第2回	TCF、DELTA/DALFの説明と実力テスト
第3回	実力テストの結果分析と、各自の到達目標を立てる
第4回	『Inspire 2』という教科書について:使い方を読んでできているという前提で説明を求めます
第5回	DELTA A1- A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;語彙の学習の仕方
第6回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;時事的な語彙を増やす方法1 (France2の使い方)
第7回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;時事的な語彙を増やす方法2 (Photo hebdo)
第8回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法3 (Photo hebdo)
第9回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法4 (Photo hebdo)
第10回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法5 (Photo hebdo)
第11回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.3;時事的な語彙を増やす方法6 (Photo hebdo)
第12回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.3;時事的な語彙を増やす方法7 (Photo hebdo)
第13回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.4;時事的な語彙を増やす方法8 (Photo hebdo)
第14回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.4;時事的な語彙を増やす方法9 (Photo hebdo)
第15回	実力判定
第16回	TCF前期結果の見直しと分析
第17回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.5;時事的な語彙を増やす方法10 (Photo hebdo)
第18回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.5;時事的な語彙を増やす方法11 (Photo hebdo)
第19回	Inspire 2 L.8;時事的な語彙を増やす方法12 (Photo hebdo);発音(鼻母音)と聞き分け(VTR)
第20回	Inspire 2 L.8;時事的な語彙を増やす方法13 (Photo hebdo);発音(鼻母音)と聞き分け(VTR)
第21回	Inspire 2 練習問題 pp.34-35;時事的な語彙を増やす方法14 (Photo hebdo);半過去の聞き分け
第22回	Inspire 2 練習問題 pp.37-38;時事的な語彙を増やす方法15 (Photo hebdo);書く、話す
第23回	Inspire 2 L.9;時事的な語彙を増やす方法16 (Photo hebdo);日本と比較して考えを述べる
第24回	Inspire 2 L.9;時事的な語彙を増やす方法17 (Photo hebdo);日本と比較して考えを述べる
第25回	Inspire 2 L.10;時事的な語彙を増やす方法18 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第26回	Inspire 2 L.10;時事的な語彙を増やす方法19 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第27回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法20 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第28回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法21 (Photo hebdo);Web上のフランス語情報の取り扱い方
第29回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法22 (Photo hebdo);Web上のフランス語情報の取り扱い方
第30回	まとめと理解度の確認

授業計画コメント

時事的な語彙を増やす方法として「Photo hebdo」(France2の毎週金曜日のニュースで取り上げられる、写真で振り返る1週間)を視聴する予定ですが、時事問題(例えばコロナウイルスや重大事件など)の変化があれば、それに置き換えます。進度はあくまで目安です。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業の場合は演習形式です。

授業方法(遠隔授業の場合)

zoomによる同時配信で行います。授業内容は対面と変わりません。できるだけ対面に近づけるためにビデオは履修者もオンに行います。画面共有を使って、インターネット上の動画などを共有し、発表、ディスカッションもあります。録画はしませんので、一回一回の授業時間を大切にしてください。質問も授業中に受け付けます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書には音源がついています。これを聴いて質問に答えるため、授業の前にあらかじめ聴いて内容を理解している方が良いでしょう(準備していない場合は、他の履修者の時間を奪ってしまうことになるので、お答えできるまで教室で音源を繰り返し聴くことはしません)。授業時間中に扱った問題、素材に関しては授業後によくおさらいをして、特に新しい語彙は単語帳を作って暗記しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	TCFの結果を参照します
学年末試験(第2学期)	30 %	TCFの結果を参照します
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

基本的にTCFの結果によって成績を評価します(B1が取れていることが望ましい)。病気などによって、TCFが受験できなかった場合は平常点と課題によって評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

全てWebClassを通じて行われます。

教科書

Inspire 2, A2, Jean-Thierry LE BOUGNEC他, hachette, 初, 2020, 978-2-01-513579-3

参考文献

『フランス語ホームステイライブ』, 一丸禎子, パトリック・レボラルール, 三修社, 初, 2011, 978-4-384-05666-2

参考文献コメント

『フランス語ホームステイライブ』は、著者が皆さんと同じぐらいの年齢の人を現地に引率した経験に基づいて書かれています。海外旅行に行くのが難しい状況ですが、この著作ではフランスの日常生活で見られる自然なコミュニケーションを擬似体験することができます。読書によって、本物のホームステイに近い経験ができると思います。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

zoomを使っての授業ですが、特別な事情がない限り、ビデオはオンにしておきます。それはみなさんの表情で理解度を測ったり、口元の動きを見て、発音を直したりするのに有効だからです。もし、各自のWiFi環境で、接続が安定しない場合、焦らずに入り直してください。こちらではどの時点で誰の接続が切れたかわかりますので、必要ならWebClassで補足します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習C		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

1) 聞き取り、2) 発音、3) 文法復習など総合的にのばしていくために、様々な角度から進めていきます。TCF受験のための傾向と対策も行う予定です。

到達目標

2年間学習したフランス語のレベル確認として、TCF試験B1(300～)を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 授業方法の説明 TCFについて
第2回	聞き取り、発音練習、文法問題 毎回この三つのどれかに焦点を合わせて行きます
第3回	聞き取り、発音練習、文法問題
第4回	聞き取り、発音練習、文法問題
第5回	聞き取り、発音練習、文法問題
第6回	聞き取り、発音練習、文法問題
第7回	聞き取り、発音練習、文法問題
第8回	聞き取り、発音練習、文法問題
第9回	聞き取り、発音練習、文法問題
第10回	聞き取り、発音練習、文法問題
第11回	聞き取り、発音練習、文法問題
第12回	聞き取り、発音練習、文法問題
第13回	聞き取り、発音練習、文法問題
第14回	聞き取り、発音練習、文法問題
第15回	理解度の確認
第16回	聞き取り、発音練習、文法問題
第17回	聞き取り、発音練習、文法問題
第18回	聞き取り、発音練習、文法問題
第19回	聞き取り、発音練習、文法問題
第20回	聞き取り、発音練習、文法問題
第21回	聞き取り、発音練習、文法問題
第22回	聞き取り、発音練習、文法問題
第23回	聞き取り、発音練習、文法問題
第24回	聞き取り、発音練習、文法問題
第25回	聞き取り、発音練習、文法問題
第26回	聞き取り、発音練習、文法問題
第27回	聞き取り、発音練習、文法問題
第28回	聞き取り、発音練習、文法問題
第29回	聞き取り、発音練習、文法問題
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。さらに単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。その場合はあらかじめ告知し、評価配分に組み込みます。

授業方法(対面授業の場合)

フランスTV5の動画やプリントを参考に、内容の把握、語彙、表現などを増やして行きます。音読、TCFの問題にも挑戦します。

授業方法(遠隔授業の場合)

フランスTV5の動画やプリントを参考に、内容の把握、語彙、表現などを増やして行きます。音読、TCFの問題にも挑戦します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。(音読ファイルを含む)
TV5の動画をみて聞き取り、フランスの日常、表現を自習してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	音読の提出などを含みます
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

配分はあくまでも参考程度であり総合的に評価します。ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。TCFの受験を義務とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題、試験は、対面、遠隔授業ともに、授業で答え合わせをして次につなげます。

教科書コメント

教科書は1回目の授業で指示します。その他プリントを配布します。遠隔の場合はwebclassにアップします。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>